

# 「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」 を目指して

21世紀を迎え、私たちを取り巻く社会経済環境は、少子高齢化、人口減少、高度情報化、国際化など、かつてない急速な変化が訪れており、国民生活に様々な影響をもたらしています。

とりわけ、地球温暖化問題をはじめ、環境に対する市民の関心は、年々高まっており、自然環境への配慮や保全等が強く求められています。

こうした中、丹沢の山々に抱かれ、豊かな自然に恵まれている本市でも、山々では大気汚染等によるブナ枯れが発生し、人々の生活と密接な関わりを持っていた里山では、たばこ生産の終了、生活様式の変化などにより人の手が入らず荒廃が進み、里山特有の景観や生態系が見られなくなっています。また、市街地では、宅地化の進行により緑地の減少、都市公園の偏在などの問題も生じています。

申し上げるまでもなく、私たちにとって、緑は、生活に潤いややすらぎを与えてくれる重要な役割を担う財産であり、こうした緑を保全し、次の世代に継承していくことは、私たちの責務であると考えます。

こうした中、本市におきましても、恵まれた自然環境を保全しながら、里山の保全・再生、市街地における快適な環境を創出するための緑化の推進や公園の整備など、諸課題に対応した施策を総合的に進めていく必要があることから「秦野市緑の基本計画」を策定いたしました。

本計画では、豊かで美しい自然を背景に、水と緑とのふれあいを大切にしながら、自然と調和した快適で生活しやすい都市の創造という基本理念の下、「緑が育む 水とみどりあふれる ふるさと秦野」を緑の将来像に掲げました。

今後は、この計画に基づき、市民や事業者、行政が連携、協力して、地域の特色を活かした、21世紀の環境共生の時代にふさわしい、市民が真に生活の豊かさを感じられる緑の都市<sup>まち</sup>づくりに取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



平成20年（2008年）3月

秦野市長 古谷 義幸